

带状疱疹ワクチン定期接種を受ける方へ

【 带状疱疹とは 】

○带状疱疹は、過去にかかった水ぼうそうウイルスが再活性化することにより、水ぶくれを伴う発疹（水疱）が、皮膚に分布する神経に沿って帯状に出現する病気です。出現する部位によっては、視力や聴力等に影響を及ぼしたり、合併症として皮膚症状が治った後も痛みが残ることがあります。

1. 対象者となる方

- ①令和8年度に65歳になる方
- ②令和8年度に70、75、80、85、90、95、100歳になる方
- ③60～64歳でヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能の障害があり日常生活がほぼ不可能な方。
但し、いずれも带状疱疹ワクチンを過去に接種した事がない方に限ります。

2. 带状疱疹ワクチンについて

带状疱疹ワクチンには2種類あり、どちらも带状疱疹の発症・重症化予防効果が認められていますが、接種費用、回数、効果とその持続時間などの特徴が異なります。

気になることやわからないことがあれば、接種前に医師や看護師等に質問をし、十分に理解をした上で予防接種を受けるようにして下さい。

		組換えワクチン（GSK社）	生ワクチン（阪大微研）
接種回数 （接種方法）		2回（筋肉内に接種）	1回（皮下に接種）
接種費用		10,000円/回 ※2回接種分の費用がかかります。	3,500円
接種スケジュール		2か月以上の間隔を置いて2回接種 ※病気や治療により、免疫の機能が低下したまたは低下する可能性がある方等は、医師が早期の接種が必要と判断した場合、接種間隔を1か月まで短縮できます。	—
接種できない方		免疫の状態に関わらず接種可能です。	病気や治療によって、免疫が低下している方は接種出来ません。
接種に注意が必要な方		筋肉内に接種をするため、 血小板減少症や凝固障害を有する方、 抗凝固療法を実施されている方は 注意が必要です。	輸血やガンマグロブリンの注射を受けた方は治療後3か月以上、大量ガンマグロブリン療法を受けた方は治療後6か月以上置いて接種してください。
带状疱疹 に対する 予防効果 （報告）	1年後	9割以上の予防効果	6割程度の予防効果
	5年後	9割程度の予防効果	4割程度の予防効果
	10年後	7割程度の予防効果	—
主な副反 応の発現 割合	70%以上	接種部位の疼痛	—
	30%以上	接種部位の発赤、筋肉痛、疲労	接種部位の発赤
	10%以上	接種部位の腫脹、頭痛、悪寒、 発熱、胃腸症状	接種部位の掻痒感・熱感・ 腫脹・疼痛・硬結
	1%以上	掻痒感、倦怠感、その他の疼痛	発疹、倦怠感

（出典 厚生労働省「带状疱疹の予防接種についての説明書」より）

※ 合併症の一つである、带状疱疹後神経痛に対するワクチンの効果は、接種後3年時点で、生ワクチンは6割程度、組換えワクチンは9割以上と報告されています。

裏面もご覧ください

3. 接種期間 令和8年4月1日～令和9年3月31日

※組み換えワクチンを打つ予定の方は、期間内に終了させるため、1回目を遅くとも令和9年1月中に接種してください。

4. 予防接種を受けることが適当でない方

- (1) 明らかに発熱している方（通常は37.5℃を超える場合）
- (2) 重い急性疾患にかかっている方
- (3) 接種しようとする予防接種の接種液の成分によって、アナフィラキシーを呈したことが明らかな方
- (4) その他、医師に不相当と判断された方

5. 予防接種を受ける前に特に医師とよく相談しなくてはならない方

- (1) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する方
- (2) 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある方
- (3) 過去にけいれんの既往のある方
- (4) 過去に免疫不全の診断がされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- (5) 接種しようとする接種液の成分に対してアレルギーを呈するおそれのある方

6. 予防接種を受けた後の注意

- (1) 接種後30分間は安静にし、体調に異常を感じたときは速やかに医師へ連絡をしてください。
- (2) 当日の入浴は問題ありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- (3) 接種当日は激しい運動はさけてください。その他はいつも通りの生活で結構です。
- (4) 予防接種を受けた方は予防接種済証を受け取り、保管してください。

問合せ先：北竜町役場 こども・暮らし応援課 健康推進係（34-7031）